

★ アンケート回収数は、児童388名、ご家庭188戸、教職員22名である。  
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、「評価(A~D)」は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。  
 ★ 「平均」、「総合評価」は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 知恵いっぱい (学び)

( A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない )

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度の改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
1	先生は、一人一人の子どもに対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	41 46 36	43 46 64	11 7 0	5 1 0	3.2 3.4 3.4	3.2	主題研究において、各種調査結果分析を基に、授業で、苦手な箇所を強化する授業づくりをしてきた。今後も、継続し、年間を通じて、計画的に苦手な箇所を強化する取組をしていく。また、新しい学習をはじめるときに、各種調査結果分析から児童の得意とする領域や苦手とする領域を記した資料を手元に置くことで、教職員の意識を高める。  昨年度と比較すると保護者が0。1P低くなっているものの、児童・教職員はともに0。2P高くなっている。今後も図書委員会の取組や門川町学校図書館支援員との連携を継続させていく。また、朝読書や学級の読書冊数等の状況を通信で保護者に発信するなどし、読書に対する意識を高めていく。  昨年度の評価とほぼ同じである。児童の評価と教職員の評価ポイント、特にB・C・Dのずれが顕著である。教師側は「手立て」や「働きかけ」を行っているつもりだが、児童には届いていない、実践できていないと考える。基本的な学習習慣の定着のために、より具体的な方策を徹底して実践していく。  昨年度と比較すると、保護者の評価は変わらず、児童の自己評価が0。1P低くなっている。教職員の評価は、0。2P高くなっており、これは「がんばるノート」を採用したり、宿題の量を調整したりするなど、全校統一した取組が進んだことが考えられる。しかし、家庭学習への取り組み方には、依然として個人差が大きいので、次年度は、効果的な取り組み方について更に考えていく。	○ 児童が読書や学習へ取り組む姿勢の問題もあると思うが、少しでもやる気になる働きかけを期待する。 ○ 「3」の評価項目は、児童の評価が一番低い項目となっており、児童からしたら、ちゃんと働きかけをしてもらえていないと感じているのではないかと思う。これまで以上に、児童一人一人に対して、コミュニケーションをとって、指導が伝わるようにしてほしい。 ○ おおむね、児童・保護者・教職員の回答は一致しているが、教職員の方々が、自分に厳し評価をしているように感じました。 ○ 現在、子どもが在学しているのですが、テストのやり直しのみならず、苦手な箇所が強化できるようなプリントを作成していただき、子どもたちは取り組んでいます。学力向上にもつながり、とてもありがたく思っています。読書やノーメディアデーの日、子どもは、とても喜んでます。しかし、しっかり取り組んでいるが、少し疑問に思うこともあります。新たな手立てを私も少し考えているところです。こんなにも先生方が「手立て」や「働きかけ」を行ってくださっているのに、児童に届いていないのは残念です。 ○ 教職員は、精一杯やられていると思います。 ○ 児童の「D」評価が気になる。先生方は、懸命に取り組まれていると思う。子どもたちの学習に向かう意識が高まっていくことに期待する。
2	学校は、本に親しませ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	36 35 19	34 54 71	18 10 10	12 1 0	3.0 3.2 3.1			
3	先生は、学習中の姿勢や発表の仕方など、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	27 46 27	38 47 68	24 6 5	11 1 0	2.8 3.4 3.2			
4	先生は、宿題や宅習など、日々の家庭学習への適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	63 50 20	24 37 75	8 11 5	5 2 0	3.4 3.4 3.2			

2 心いっぱい（豊かな心）

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度の改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
5	学校は、元気なあいさつや会釈の定着をめざして、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	55 51 14	30 41 81	10 7 5	5 1 0	3.3 3.4 3.1	3.3	<p>昨年度と比較すると、教職員と保護者の評価が0.1P低くなっている。児童委員会活動によるあいさつ運動や、全児童に呼びかけての先出しあいさつボランティアを継続しており、進んであいさつをする児童が増えてきてはいるが、積極的なあいさつをしない児童も少なくない状況である。今後も、各学年・学級で、あいさつの大切さを児童に話すとともに、先出しあいさつができた児童を積極的に称賛し、先出しあいさつする児童を増やしていく。</p> <p>昨年度と比較すると、児童の自己評価が0.1P高くなったが、保護者の評価は0.2P低くなっている。高学年や環境美化委員会の児童が、始業前に奉仕活動や常時活動に取り組むなど校内美化に取り組む姿が見られる。週に2回の清掃が確保できなかったことがあり、環境美化への徹底がなされなかった。来年度は週に2回の清掃は、確保していく。</p> <p>昨年度と比較すると、保護者と教職員の評価が0.2P低くなっている。トイレのスリッパを揃えることや安全な廊下歩行については、指導を続けてはいるが、今一つ意識が高まっていない。全職員で一丸となって繰り返し指導していく。</p> <p>日常における児童の言葉の荒さや、悪口、トラブル等が多いが、学校全体で取り組む学期目標の「ふわふわ言葉を使おう」において、全学級で話合いの時間を設定し、ふわふわ言葉を掲示したことにより、言葉遣いについて意識するようになってきた。今後もいじめ・不登校の早期発見、早期解決に向けて、心のアンケートや教育相談、保護者面談等を計画的に実施し、より一層の児童理解に努め、組織としての共通実践に取り組んでいく。</p>
6	学校は、静かに落ち着いて学んだり生活したりするための指導や環境作り、環境美化に取り組んでいる。	児童 保護者 教職員	52 38 18	33 49 82	11 11 0	4 2 0	3.3 3.2 3.2		
7	学校は、身の回りの整理整頓、正しい廊下歩行など、基本的な生活習慣の定着に向けて、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	42 45 10	41 49 85	12 5 5	5 1 0	3.2 3.4 3.0		
8	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	68 36 29	24 49 71	4 13 0	4 2 0	3.6 3.2 3.3		

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度の改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
9	学校は、運動に親しみ、体力向上をさせるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	62 36 10	24 58 61	8 5 29	6 1 0	3.4 3.3 2.8	3.3	<p>昨年度と比較すると保護者の評価が0.1P、教職員の評価が0.2P低くなっている。しかし、体力テストの結果を見ると、昨年度とそれほど変わらない結果であった。体育科の授業改善を軸として、普段からの運動の習慣化を浸透させ、体力向上を図るための具体的方策について工夫・改善をしていく。また、ICTを用いて、技のポイントや自分の動きを確認させていく。</p> <p>昨年度と比較すると、保護者が0.1P、教職員が0.3P低くなっている。今年度は、学校保健委員会において「メディアの約束」を決定し、メディアに関する講話を実施した。更に「ノーメディア読書デイ」を月に1回設定し、意識啓発に努めた。次年度もICTに関するモラルも含めて、学校と家庭が一緒になって、メディアコントロールを児童に指導していく。</p> <p>昨年度と比較すると教職員の評価が0.1P低くなっている。次年度は、給食の素晴らしさを知ってもらうために保護者を対象にした給食試食会を実施する。また、弁当の日も継続して実施する。</p> <p>昨年度と比較すると、保護者、教職員ともに0.1低くなっている。今年度の下校時避難訓練では、児童が自分たちで判断し、避難した。また、4年生は門川高等学校の生徒の協力を得て、「防災マップ」を作成した。今後、作成した「防災マップ」を活用し、自分の命を守る意識を高めていく。交通安全については、見守り隊の方や地域の方によると、安全な下校の仕方や自転車の乗り方に課題があるようである。今後、下校時の見守りや交通安全教室の指導の仕方を工夫し、児童の安全意識を高めていくようにする。</p>
10	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	46 38 5	32 53 62	15 9 33	7 0 0	3.2 3.3 2.7		
11	学校は、給食指導や弁当の日の実施など、望ましい食習慣の定着に向けて、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	61 52 14	28 44 86	7 3 0	4 1 0	3.5 3.5 3.1		
12	学校は、避難訓練や交通安全教室をとおり、危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	64 63 29	28 34 71	5 2 0	3 1 0	3.5 3.6 3.3		

- 日向市の取り組む不登校生徒の状況をみると、好きな(得意な)スポーツ活動への参加には興味を示してくれる。個々も個性を生かした環境づくりが求められる。
- 親子で朝食の大切さを更に強化して指導してほしい。
- 体力向上や生活リズムについて、教職員の評価が低いのが気になる。結果が出ていないから、評価が低いのだろうか。もっと自信をもって働きかけを行ってほしい。自信がなければ、児童の心に届かないのでは？
- 全体的に教職員の評価が低くなっていますが、児童・保護者からの評価は高いと思います。教職員のやりたいことができていないと思いますので、家庭と協力して生活習慣の改善に取り組める環境づくりをしてほしい。
- ノーメディアについては、ある程度定着しているように感じますが、保護者の多くが「一日中、YouTubeを見ている。」と言います。私の子もノーメディアデイの日は守っていますが、普段は常に見ているので、メディアが子どもに与える影響を再度伝える必要を感じています。
- 体力・身体抵抗力を維持するためには、適度な運動や質の良いバランスのとれた食事や十分な睡眠が必要と言われています。これは、家庭の協力が大前提になると思うので、できることがあれば何でも保護者に発信してください。
- 下校時避難訓練で中央公民館下から中学校までの間で見守りをさせていただきました。子どもたちはソワソワした様子、交差点には消防車と係の誘導が行われ、緊張感が感じられませんでした。教職員は、どのように思っているのか知りたいです。
- コロナによって生活の様子が変わったことが影響していると思う。時代に合わせた取組を…。望ましい食習慣の定着については、学校給食センターを見学するのも良いのでは…。

#### 4 連携等

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度の改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
13	学校は、地域の人材や素材を生かした学びや体験活動を積極的に行い、キャリア教育の充実に努めている。	児童 保護者 教職員	68 46 38	23 46 48	6 7 14	3 1 0	3.5 3.4 3.2	3.3 児童と保護者の評価は昨年度と同様であるが、教職員の評価は0.2P高くなっている。本年度は、1年生では高齢者との昔の遊び活動、2年生では、門川高等学校の生徒や地域の方との芋の栽培活動、3年生では、宮崎大学教授による門川の魚に関する学習、4年生では、門川高等学校の生徒の協力を得ての防災学習、5年生では福祉体験や俳句の学習、6年生では、地域おこし協力隊の方の講話、乙島自然体験など各学年の取組が充実してきた。また、地域コーディネーターによって外部との連携がうまく図ることができた。児童の郷土愛、職業観等を高めることができるよう、今後も工夫・改善を加えながら継続して取り組んでいく。	○ 他業種の大人による仕事内容等の講演(説明)会を行うことにより、多方面への仕事等の理解を深めていく。町内の企業等への働きかけにより参加を要請する。 ○ 教職員の評価が上がっていることに一定の手応えを感じはじめたのではないかと。コロナの分類が5類へ移行して地域との連携もしやすくなったはずなので、今後を期待する。 ○ 全体的に教職員の評価が低くなっていますが、児童・保護者の評価は高いと思います。教職員のやりたいことができていないと思いますので、教職員のやりたいことを実行できる環境づくりをしてほしい。 ○ 多種多様な取組をされており、感謝しています。 ○ 子どもたちにたくさんの学びの場やキャリア教育の充実に力を入れてくださり、とてもありがたく思っています。もっと門川小学校の良さをアピールしてもらいたいです。 ○ この活動を知り、学校の状況など少しずつ理解してきたところです。人との結びつきが大事なものは、児童だけでなく地域の人も同じだと思います。ホームページが読みやすく、分かりやすいです。更新回数を増やしたこともいいですね。 ○ コロナ禍明けで、活動が盛んになっていると思う。地域と子どもたちのために、充実した活動を期待する。 ○ 「学校だより」の地域回覧分は、カラー印刷が良いと思う。
14	学校は、教育目標や教育方針、学校の課題、必要な情報等を、通信をとおして、分かりやすく発信している。	児童 保護者 教職員	— 46 19	— 45 76	— 8 5	— 1 0	— 3.4 3.1		

#### 5 その他（学校運営協議会委員より）

門川町立門川小学校（NO. 3）

- 読書習慣の継続に力を入れていただき、豊かな心を育ててください。
- コロナによる活動制限がなくなり、いろいろなことができるようになったが、その分、難しさもあるように感じる。過去のことを振り返りながら、新しい形を見つけてほしい。
- 全体的に評価の平均が3点以上となっていて、良い評価となっていると思います。3点未満の項目については分析を行い、次年度に向けて対策を取ってほしいと思います。
- 朝のあいさつ運動の時、既に疲れ切っている児童を見るときがあり、何時に寝ているか、朝食をとっているかの状況把握が必要だと感じます。アンケートも良いですが、個別で見守りする体制が必要な気がしています。
- 途中メンバー入りで何を話していいか分からず戸惑いました。申し訳なく思います。私自身も意識が改められありがたいです。教職員は大変良くやっておられる。驚きでした。また、地域との関わり・つながりがほしいのは高齢者も同じです。誰もが年齢を重ね、気が付けばあちこちにガタがきます。そうなる前に、馴染める場所づくりが必要だと感じています。児童と地域とが良い方向に向かうように知恵を出し合いたいものです。父のことをとおして感じるがありましたので、長々すみません。
- 家庭から回収されなかった数が気になる。保護者と学校の関わり方なのか、時代なのか、門川だからなのか…。

#### 6 次年度への改善について

- 学習のきまりや学び方等の基本的な学習習慣を身に付けさせるとともに、各種調査結果分析をもとに、学ぶことの楽しさを味わわせながら苦手な領域を強化していく。
- あいさつや整理整頓など、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、いじめや不登校を生まないための教職員の児童観察や教育相談の技術を高めていく。
- メディアコントロールを含めた正しい生活リズムを習慣化させるとともに、生活安全、交通安全、災害安全について、危険予知能力や安全を確保することのできる基礎的な素養を高めていく。
- 参観日の学級懇談会における意見交換やPTA活動を充実させるとともに、保護者同士、保護者と教職員が少しでも抵抗なく、連携・協働できるようにしていく。